

火の用心アプリ



住宅で発生する火災のメカニズムや注意すべきポイントを短く分かりやすい映像で確認できます。

ライブ映像119

(映像通報システム)



通報者が携帯しているスマートフォンのカメラ機能やウェブブラウザを利用し、通報者と指令情報センターの間で映像の送受信ができます。

救命サポートアプリ



いざという時に応急手当を実施できるような音声と映像で心肺蘇生法を手助けします。成人・小児・乳児に対応しています。

救急安心センターおおさか

#7119

つながらない場合は、06-6582-7119



突然の病気やケガで困ったとき、救急医療相談や症状に応じた病院案内を看護師が医師の支援体制のもと、24時間・365日対応します。

小児救急支援アプリ



お子様の突然の病気やケガで困ったときに「緊急性」を判断し、症状に応じた近くの医療機関（大阪府内）を地図に表示します。

ボジョレーに教わる

救命ノート



親しみやすいアニメで、応急手当の方法のほかケガや病気を予防するための情報を紹介しています。



2次元コードを読み取ると、アプリストアまたはホームページにつながります。



お住まいの

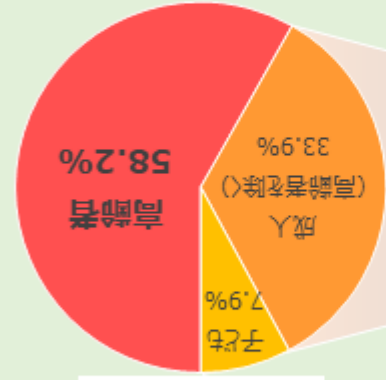
火災・事故の予防

消防署からのお知らせ



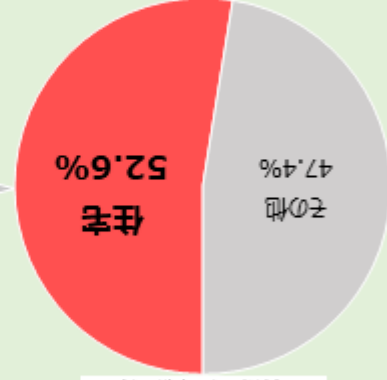
急病を除く重症事故
種別割合
(平成28年～令和2年)

重症化にかなりやすい
事故は...



世代別割合
(平成28年～令和2年)

5割以上が自宅で発生しています！
傷病者のうち約6割が高齢者です！



発生場所割合
大阪市内救急事故
(平成28年～令和2年)

事故

火災・事故の予防対策は裏面へ

第1位 たばこ

- ・寝たばこは絶対にしない
- ・吸い殻は水で完全に消火する
- ・吸い殻はこまめに処分する

第2位 ストロー

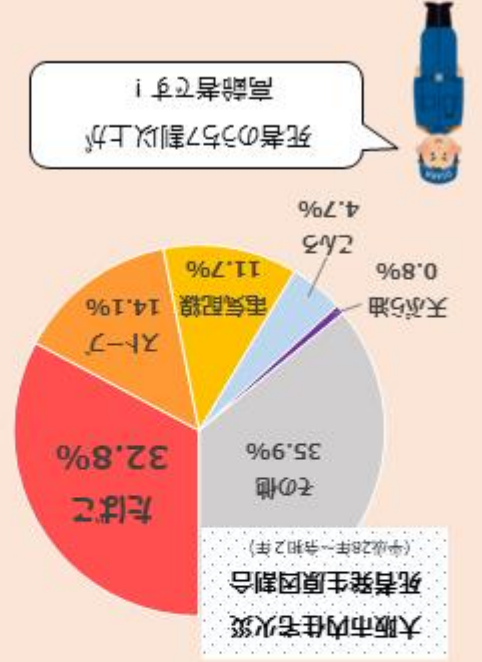
- ・特に電気ストローが多い
- ・寝る時は必ず消す
- ・燃えやすいものから遠ざける

第3位 電気配線

- ・タコ足配線はしない
- ・傷んだものは使用しない
- ・プラグのほこりを掃除する

第4位 こんろ

- ・調理時は離れない
- ・周囲の整理整頓をする
- ・着衣着火に注意する
- ・調理油過熱防止装置などの安全装置付きに替える



死者に多い原因は...

火災

① ～火災を早く知るために～
住宅用火災警報器

- ◆設置場所は寝室、台所、条件により階段、廊下にも必要です。
- ◆定期的にボタンを押すか、ひもを引いて点検し、10年を目安に交換しましょう。



- ◆作動した警報器から他の警報器へ連動させて警報を行うものや火災だけでなくCO（一酸化炭素）を検知できるものもあります。

② ～火災を広げないために～
防災品

- ◆燃えにくい性能（防災性能）をもったエプロン、寝具、カーテン、布製ブラインド、じゅうたん等の使用をおすすめします。
- ◆高さ31メートルを超える高層マンションではカーテン、布製ブラインド、じゅうたん等に防災性能をもったものを使うよう消防法で義務付けられています。



③ ～火を消すために～
住宅用消火器

- ◆色・デザインが豊富で、操作が簡単です。
- ◆適応する火災を絵で表示しています。
- ◆使用期限などは本体に表示しています。



④ 放火させない環境づくり

- ◆家のまわりに燃えやすいものを置かず、できるかぎり明るくする。
- ◆ごみ出しは、収集日や収集時間などのルールを守る。
- ◆物置、車庫などには必ず鍵をかける。
- ◆バイクなどのポディカバーは防災品を使う。

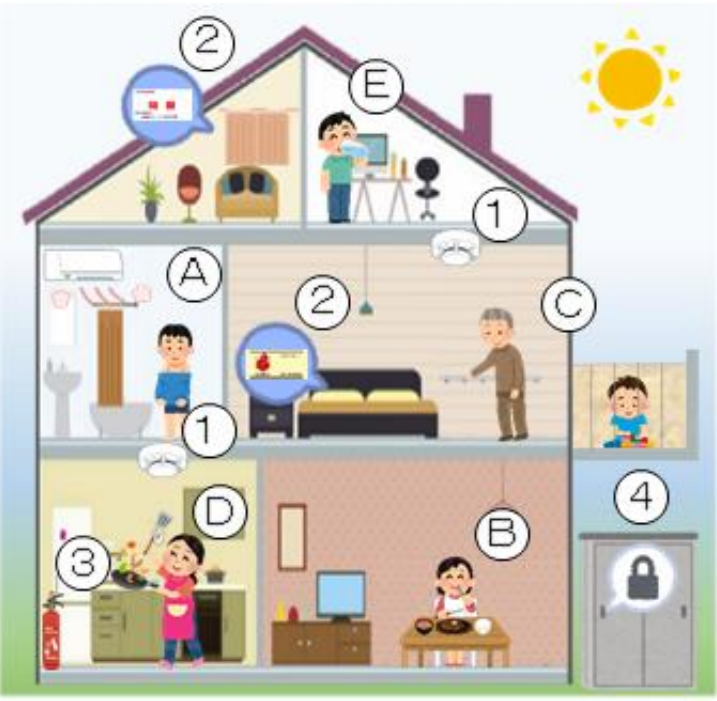


すすめましょう！
火災予防対策 事故予防対策

①～④ A～E

住まいの防火・防災診断

希望される方のお宅を消防職員が訪問し防火・防災のアドバイスをしています。希望される場合はお近くの消防署へご連絡ください。



Safety Net
Small Tank
Rescue



大阪市消防局では事故の内容により、救急車に加えて消防隊【セーフティネット・レスキュー（通称：STR）】を出場させ、市民の皆様を助けに行きます！

A お風呂には危険がいっぱい
～風呂場での事故を防ぐために～

- ◆体調が万全でない時や飲酒後は入浴を控える。
- ◆冬はヒーターやシャワーなどで脱衣所や浴室を温めておく。
- ◆小さな子どもからは目を離さない。



B えっ、そんな小さいもので？
～のど詰め事故を防ぐために～

- ◆もちやパンなど、のどに詰まりやすいものは小さく切って食べる。
- ◆硬貨やスーパーボールなど、子どもが誤って口に入れそうなものは身近に置かない。



C 転ばぬ先の・・・
～転倒・転落を防ぐために～

- ◆部屋の中は段差を少なく。
- ◆床に新聞紙などすべりやすいものを置かない。
- ◆階段まわりは明るくし、すべり止めや手すりをつける。
- ◆小さな子どもがいる家庭では、ベランダや出窓の近くに踏み台になるようなものを置かない。



D 火災につながることも・・・
～やけどを防ぐために～

- ◆熱い飲み物やポットなどは子どもの手の届かないところへ置く。
- ◆こんろを使う時は袖の開かない服を着る。



E ガマンは禁物
～熱中症を防ぐために～

- ◆自宅内でも熱中症には要注意。
- ◆こまめに水分・塩分を補給する。
- ◆ガマンせず、エアコンなどで適温にする。

